

研究テーマ「市の観光施策について」の調査研究報告

飯田市議会 産業建設委員会

はじめに

平成 25 年度に前委員会は、議会による行政評価の対象事務事業として「天龍峡温泉交流館管理事業」を取り上げ、廃止提言を行った。これに対する市の対応は、事業規模としては「見直し・改善」とし、今後の施設の在り方については、地区等でも検討中でありその結果を踏まえて方針を出したいとの方向性が示された。委員会としても、市の検討状況を注視しつつ、管内視察での現地確認などをおして調査研究を進めていくことを確認した。併せて、リニア中央新幹線、三遠南信自動車道などの交通網の整備を見据え、誘客施策やプロモーションを検討する必要があること、また、観光統計によると観光客数、観光消費額ともに減少傾向が続いており、魅力ある観光地とするために資源や受入れ体制の整備も必要との認識から、「市の観光施策について」を委員会の研究テーマとすることにした。

平成 27 年度から引き継いだ当委員会は、管内・管外視察や、議会報告会において市民からの意見を聴くなど調査研究を進め、行政評価や議案審査において市側に提言などを行ってきた。

当委員会の任期を迎えるにあたり、これまでの委員会の調査研究内容を一旦総括し、それを踏まえ、補足事項について委員会の提案として担当部署へ提出するものである。

I 提案

- 1 東西・南北交通の結節点となり、玄関口となる当市から、交流人口の大幅増を図るため、民間団体も含め、東京、名古屋、浜松、大阪などの都市圏との具体的な連携や交流事業を展開されたい。
- 2 市が主体性を発揮し、注目すべきエリアを明確にした上での周回ルートを開発されたい。
具体的には、管外視察において高山市の観光誘客を視察した際にも、「昇龍道」によるPRが盛んに行われていた。例えば、当市においても、天竜川に沿ってまさに龍が天に昇るイメージはつかみやすい。市が主体性を発揮しルートづくりに取組まれたい。
- 3 南アルプスユネスコエコパーク・ジオパークの魅力発信による山岳観光に必要な整備をされたい。

II 調査研究の経過

1 全般の取組

- 平成 27 年 5 月 20 日 管内視察
・野底山森林公園モーリーの森交流館
・ココロファームビレッジ
- 7 月 8/9 日 産業建設委員会管外視察
・石川県七尾市の道の駅能登食祭市場の取組みを視察
・岐阜県高山市の観光施策、外国人観光誘客の取組を視察
- 7 月 22 日 産業建設委員会の開催（26 年度事業評価）
- 8 月 4 日 産業建設委員会協議会の開催（26 年度事業評価）
- 9 月 29 日 決算認定に係る施策及び事務事業に関し市へ提言
〈提言内容 別紙参照〉
- 10 月 議会報告会において「地域資源を生かし、地域経済や地域の活性化を図るには」をテーマに意見交換
（このテーマに関する対応は別掲）
- 平成 28 年 3 月 11 日 産業建設委員会
・決算認定に係る施策及び事務事業への提言に関し、当初予算への反映状況の説明を受ける。
〈提言内容 別紙参照〉
- 4 月 20 日 管内視察
・東栄公園整備事業
・高原ロッジ下栗屋内改修工事
・ハイランドしらびそ新館外壁塗装工事
- 7 月 7～9 日 管外視察
・鳥取県大山町の大山恵みの里公社の取組視察
・島根県雲南市の株式会社吉田ふるさと村の取組視察
- 7 月 20 日 産業建設委員会の開催（27 年度事業評価）
- 8 月 2 日 産業建設委員会協議会の開催（27 年度事業評価）
- 9 月 26 日 決算認定に係る施策及び事務事業に関し市へ提言
〈提言内容 別紙参照〉
- 10 月 議会報告会において経過を市民に説明
- 11 月 4 日 産業建設委員会協議会
・テーマに関する調査研究結果の確認
- 平成 29 年 2 月 8 日 産業建設委員会協議会勉強会
「観光振興ビジョン推進ロードマップ（素案）」の説明を受ける

2 天龍峡温泉交流館に関する調査研究

- 平成 27 年 5 月 20 日 管内視察
・天龍峡温泉交流館の現地確認
- 9 月 17 日 産業建設委員会協議会の開催
・名勝天龍峡に隣接するため文化庁と調整している状況などの報告を受ける
- 10 月 議会報告会において経過報告
- 11 月 10 日 産業建設委員会協議会勉強会
・施設概要を基に、施設の機能、役割、また天龍峡 I C 休憩施設との関連などについて意見交換
- 12 月 14 日 産業建設委員会
・平成 27 年度飯田市一般会計補正予算第 5 号案の天龍峡まちづくり支援事業の審査の中で天龍峡温泉交流館の改修計画について審議
- 平成 28 年 1 月 22 日 産業建設委員会協議会及び協議会勉強会
・天龍峡整備現地調査
・天龍峡温泉交流館の採算性、継続性について意見交換
- 3 月 11・12 日 産業建設委員会
・平成 28 年度飯田市一般会計予算審査において、天龍峡活性化事業費に位置付けられた天龍峡温泉交流館の建築に関し審議。議員間自由討議を経て附帯決議

〔附帯決議〕

- 1 三遠南信自動車道(仮称)天龍峡大橋の開通や将来のリニア中央新幹線の開業を見据え、飯田市観光ビジョンのロードマップの中で、天龍峡及び天龍峡温泉交流館の位置付けを整理し、実践的な誘客戦略を早急に立てられたい。また、それに基づく詳細な経営見通しを立てられたい
- 2 天龍峡温泉交流館完成後は、経営状況を所管する委員会に報告すること

※ 付帯決議に沿って、事業進行を監視・評価していく

- 6 月 9 日 産業建設委員会協議会
・天龍峡温泉交流館の建築状況、天龍峡活性化に向けた取組の説明を受ける
- 9 月 16 日 産業建設委員会協議会
・天龍峡温泉交流館の建築状況、天龍峡活性化に向けた取組の進捗状況の説明を受ける
- 10 月 議会報告会において経過を市民に説明
- 12 月 14 日 産業建設委員会協議会勉強会
・天龍峡温泉交流館の条例の一部を改正する条例制定について審査。天龍峡温泉交流館の建築状況と経営見通し、天龍峡活性化に向けた取組の進捗状況の説明を受ける
- 平成 29 年 2 月 8 日 産業建設委員会協議会勉強会
「観光振興ビジョン推進ロードマップ(素案)」の説明を受ける

3 別添資料

- (1) 平成 26 年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言への対応
状況抜粋
- (2) 平成 27 年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言抜粋

「平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言」への対応状況(平成28年度事業計画及び当初予算(案)の内容)

施策名 事務事業名	委員会	提言の方向性	施策主管課・事務事業担当課	施策及び事務事業に対する議会の提言	事務事業での対応		提言への対応状況(施策は考え方や計画・特筆すべき事項について、事務事業は事業計画と予算内容について記載)	H27当初予算(単位:千円)	H28当初予算(単位:千円)	予算科目 款-項-目-細目-細々目	一般会計 予算 繰越金
					事業規模	予算					
支え、育む産業 基盤づくり	産建		産業振興課	<p>○方向性と評価は概ね正しいが、次の事項を課題と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所数や飯田市地方卸売市場の取扱数量が減っている。地場業者の沈下が懸念される。 ・搬出間伐の面積が減少しており対応策が必要である。 ・施策1-1から1-3は相互に関連しあっており、事務事業レベルの整合性を明確にするとともに、地方卸売の視点からあらためて見直し、改善が必要である。(提言) ・観光政策については、飯田市観光振興ビジョン推進のロードマップを関連団体とともに策定し、進捗管理されたい。 ・事業所数や飯田市地方卸売市場の取扱数量が減少しており、地場業者の衰退が懸念されるので、早急な対策を打ち出されたい。 	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・地域商業の実態把握に努めながら、地元の卸や小売業の維持存続のため、飯田商工会議所などと連携した対策を推進していきます。 ・搬出間伐を促進するため、急峻な当地域の山林の状況に合わせた高上げ補助等について、飯伊森林組合等と検討を行い、対応策を明らかにしていきます。 ・施策1-1、1-2、1-3は、相互に関連しているとの認識で整合性を図りながら進めていきます。課題については、地方卸売の視点を含め次期総合計画に引き継いでいきます。 ・飯田市観光振興ビジョンについては、平成27年度において飯田観光協会、飯田商工会議所、飯田信州観光公社、まちづくり委員会連絡協議会等に対して説明を行い、情報の共有と周知に努めました。 ・またビジョン実現のためのロードマップについては、平成28年度の飯田市総合戦略との整合を図るとともに、当面は11年後のリニア中央新幹線開通までを見据えた行動計画として策定します。 ・卸売地や卸売市場などの情報交換や連携した取組を通じて地域の流通業の振興を図ります。 	-	-	-	-
雇用対策事業	産建	改善 や り 方	産業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉的側面に重点を置く事業は、別事業とし福祉課の所管とされたい。 ・カウンセリングから職業紹介まで、また就職に関する様々なサービスの提供など、雇用のミスマッチ対策に積極的に取り組まれたい。 ・ジョブカフェいいだは利用効果が見られている。対象年齢を45歳未満まで拡大することを検討されたい。 ・新規高卒者への求職情報の発信など企業とも連携し積極的に進められたい。 	-	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉課でも専門の就労支援員が配置されるなど、相談者に応じた体制が整いつつあることを踏まえて対応していきます。 ・職業適性検査、県のジョブカフェと連携しての相談会や就職支援セミナー等雇用のミスマッチ対策につながる支援を実施していきます。 ・ジョブカフェいいだの相談者のほとんどは20代、30代の若者ですが、年齢を問わず同様に対応しております。 ・ハローワーク飯田や飯田職業安定協会等関係団体と連携し、高校生の地元企業訪問、高校での地元企業の説明会、地域産業のカイドブックを配布するなど高校生に対する取組をしていきます。 	1,605 前倒し (1,000)	1,660	5-1-1- 10-4	220

産業建設委員会

「平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言」への対応状況(平成28年度事業計画及び当初予算(案)の内容)

施策名 事務事業名	委員会	提言の方向性	施策主管課・事務事業担当課	施策及び事務事業に対する議会の提言	事務事業への対応		提言への対応状況(施策は考え方や計画・特筆すべき事項について、事務事業は事業計画と予算内容について記載)	H27当初予算(単位:千円)	H28当初予算(単位:千円)	予算科目 款-項-目-細目-種々目	一般会計 予算書 掲載頁
					事業規模	予算					
観光誘客 伝事業	産建	や改 り善 方	観光課	<p>観光内容、目的に沿ったプロモーションになっているか検証するとともに、さらなる民間委託による専門性の発揮を検討されたい。</p> <p>・飯田の特性を生かした新たな観光コンテンツを創造されたい。</p> <p>・SNSを利用した観光誘客コンテンツづくり、情報発信者の育成、交流の場づくりを進められたい。また、Wi-Fiステーションマップを作成し市のHPなどで確認できるようにされたい。</p>	拡大	縮小	<p>・飯田観光協会、㈱南信州観光公社等との連携や業務委託等を進め、観光客の多様なニーズに対応した観光商品の開発やPR活動を実施しています。</p> <p>・リニアでつながる品川エリアを手始めとして、平成25年度より民間事業者等との情報交換や交流により双方方向での関係性を深めながら、首都圏に向けた飯田の知名度向上に努めています。</p> <p>・飯田観光協会と南信州広域連合が共同運営する「南信州ナビ」により飯田市の観光情報を発信していますが、平成28年度のリニューアルを契機にツイッターやフェイスブック等SNSに対応したコンテンツの組み込みも行っていきます。</p> <p>・Wi-Fiステーションマップについては、市の施設にあるWi-Fiスポットは市のホームページで公表しています。また、その他のWi-Fiスポットは国内外共にスマートフォン等に対応しそれぞれ専用のアプリで即時検索ができることと、民間のWi-Fiスポットが増加中の状況にありますので、現在のところマップの作成は考えておりません。</p>	11,112	8,394	7-1-4-10-2	254
地場産業等 振興事業	産建	現 状 維 持	工業課	<p>・産業支援機関として、費用対事業効果の徹底検証を行われたい。</p> <p>・専門コーナーディネーター、アドバイザーの確保に努められたい。</p>	現 状 維 持	現 状 維 持	<p>・「知の拠点」への(公財)南信州・飯田産業センターの移転による機能拡充を視野に入れながら、産業センターの運営及び各種事業について、これまでの補助金や負担金による成果を検証、効果測定を行いつながりを取り組みます。</p> <p>・専門コーナーディネーターやアドバイザーの確保については、健康医療・食品分野で研究、開発から事業化までトータル的にサポートできる人材の確保に努めます。</p>	43,200	43,982	7-1-5-10-17	264

「平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言」への対応状況（平成28年度事業計画及び当初予算（案）の内容）

産業建設委員会

施策名 事務事業名	委員会	提言の方向性	施策主幹課・事務事業担当課	施策及び事務事業に対する議会の提言	事務事業での対応		H27当初予算 (単位:千円)	H28当初予算 (単位:千円)	予算科目 款-項-目-細々目	一般会計 予備費 税職員	
					事業規模	予算					
新しい力による新しい産業づくり	産建		産業振興課	<p>施策及び事務事業に対する議会の提言</p> <p>○平成26年度の評価結果は、事務事業の評価が「計画どおり取り組めた」施策全体の評価が「進んだ」となっているが、航空宇宙産業クラスター事業は本格稼働には至っていない、他の産業クラスター事業についてはまだこれからといったところ。また、起業家発掘事業は最終的には実績には至らなかった点などから、それほどまでには進んでいないと認識する。 (提言) ・産業用地の整備に当たっては、募集する事業所のコンセプトの統一や高速交通網を整備されることを見据えた情報産業などの企業の選定に配慮すること。また、環境に配慮した企業の選定も考慮された。 ・工場等の跡地や空き家となった工場などを産業用地として検討すること。 ・起業の支援に重点的に取り組まれた。 ・南信州・飯田産業センターの移転に当たっては、検証作業を行うとともに、機能の充実などによりよりよいものになるよう検討されたい。 ・飯田型ソーリスムの推進については、ライバル自治体の増加により厳しい状況にあり、アフターフォローを徹底し、体験者側から見ても、力あるメニューの開発を行われたい。</p>	事業規模	予算					
農業法人誘致・設立促進事業	産建	拡大	農業課	<p>見直し・改善</p> <p>現状維持</p> <p>・遊休農地活用、耕作放棄地の解消、農地利用集積円滑化、農業担い手誘致、新規就農者支援、そしてこの事業、さらに農業分野創出・6次化事業、農業振興センター事業は、一連の流れの中の事業展開であって、相互の事業連携が必要となる。「総合的な相談・対応」が必要で、事業全体を組み立て直されたい。 ・参入法人の発掘のため、直接訪問やヒアリングを強化されたい。</p>	事業規模	予算	<p>見直し・改善</p> <p>現状維持</p>	0	0	6-1-3-15-1	226
				<p>提言への対応状況(施策は考え方や計画・特筆すべき事項について、事務事業は事業計画と予算内容について記載)</p> <p>いただいた課題や提言については、今後の課題として改善をしていきます。 ・産業用地については、三遠南信自動車道龍江インター(仮称)周辺において、自然環境と共生する新たな産業団地の整備に取り組みます。 ・企業誘致については、南信州地域産業活性化基本計画に基づき3つの分野を中心に地方創生の視点から、本社機能の移転や研究開発型企業の誘致等も含め、引き続き誘致活動に取り組みます。また、団地整備までの間は、工場等の跡地や空き家のデータも活用し企業ニーズに合った誘致活動を行います。 ・起業家発掘事業(ビジネスプランコンペ)は、選考過程で応募者に専門家の助言をし、より良い事業計画に練り上げて実際の起業につなげることが目的であり、授賞者数は1つの目安です。平成27年度には大賞を1件、進大賞(特別賞・奨励賞)を各1件授賞しましたが、引き続き、優れた起業案件の創出支援をしていきます。 ・平成27年度は、「チャレンジ起業相談」への相談件数が昨年度に比べて倍増しています。さらに懇切丁寧な相談を行い、起業件数を増加させていきます。 ・(公財)南信州・飯田産業センターの移転拡充については、取組の成果を検証する中で課題を把握するとともに、産業界の意見等をしつかりお聞きし、課題の解決に必要な機能の拡充等、具体的な内容を検討します。 ・飯田型ソーリスムの推進については、(株)南信州観光公社が主力事業としている体験教育旅行の既存メニューの改善や新しいメニューの商品化を進めるとともに、誘致活動を九州地方エリアまで拡大して新規顧客の獲得に努めています。また、訪日体験教育旅行や大人向けの体験型ツアーなどにも取り組んで推進を図っています。</p>							

「平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言」への対応状況(平成28年度事業計画及び当初予算(案)の内容)

施策名 事務事業名	委員会	提言の方向性	施策主管課・事務事業担当課	施策及び事務事業に対する議会の提言	事務事業での対応		提言への対応状況(施策は考え方や計画・特筆すべき事項について、事務事業は事業計画と予算内容について記載)	1127 当初予算 (単位:千円)	1128 当初予算 (単位:千円)	予算科目 款-項-目-細目-細々目	一般会計 予備費 掲載頁
					事業規模	予算					
農業新分野 創出・6次化 推進事業	産建	改善 や 方	農業課	<p>・新しい取り組みであり、当面の間はハード、ソフト両面に対し市の積極支援を行いたい。</p> <p>・人材育成のためのセミナー、参加者のアフターケアをしっかりと行われたい。</p> <p>・当事業の推進に当たっては、農業法人誘致や設立促進を図られたい。</p>	現状維持	縮小	<p>・6次産業化総合化学事業計画の認定事業者に対しては、引き続き、部内各課が連携して支援するとともに、今後、計画認定を目指している農業者に対しても関係機関が連携して支援していきます。</p> <p>・平成27年度より、次世代の農業経営を担う女性をターゲットとして、農家民泊等の地域資源を活用して新たなビジネスモデルを創出する講座「アグリビジネス起業塾」を立ち上げることによる起業希望農業者への支援を進めています。また、「あぐり実践塾」では、新規や若手就農者に農業基礎の講習等を実施し、抱い手の育成を推進していきます。</p>	77,729	6,861	6-1-4-37-1	234
広域連携による観光誘客事業	産建	改善 や 方	観光課	<p>・リニア・三遠南信時代を見据え、魅力あるエリアや周回ルートを明確にした事業転換を図られたい。</p>	現状維持	拡大	<p>・三遠南信サミットを通じて連携している飯田市、浜松市、豊橋市の3市で新しく三遠南信観光連携会議を組織し、3圏域の周遊化を目指した連携事業について検討していきます。今後も具体的な事業展開についての試行しながら継続して検討していきます。</p> <p>・三遠南信・伊勢志摩広域観光交流連携協議会では、平成27年度に周遊化を目的とした広域ドライブマップを作成しましたが、平成28年度はさらに4圏域の新しい連携事業について検討を進めており、今後も継続していきます。</p> <p>・伊那路・木曾路広域観光連携協議会では、飯田市の五平餅スタンプラリーを参考にして、平成27年度に伊那谷と木曾谷を食でつなげる新たな周遊観光を実施したところ、特に中京圏からの観光客に非常に好評を得ました。平成28年度は、スタンプラリーで寄せられた意見・要望を反映する中で、参加店舗や食種を増やすなど事業規模の拡大を図って実施します。</p>	0	0	ゼロ予算	-
地域産品ブランド化事業	産建	改善 や 方	工業課	<p>・新たなブランド品発掘のためのプロモーションの仕組みづくりを検討されたい。</p> <p>・飯田市産業親善大使が縦横無尽に活躍できるように、市も積極的に取り組まれた</p>	現状維持	現状維持	<p>・地域ブランド力の向上については、地域資源を活用したブランド品の発掘をはじめ、異業種連携による事業化や国内外をターゲットにした販路開拓を目的としたプロモーション活動を支援します。</p> <p>・飯田市産業親善大使の持つ宣伝力とアイデアを活用しながら、地域産品の露出強化及び販路開拓につながるプロモーション活動に取り組みます。</p>	3,036	3,036	7-1-5-10-23	266

平成27年度 決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【産業建設委員会】

No.	施策・事務事業の区分		事務方向 事業性	提言
	区分 No.	施策名及び事務事業名		
1	11	支え、育む産業基盤づくり		<p>【目標の達成状況評価、課題認識】概ね正しい。</p> <p>【事務事業の組み立ての方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策1-1から1-3は相互に関連しあっており、事務事業レベルの関連性を明確にするとともに、地方創生の視点も入れて次期総合計画策定に向け大幅に見直すべき。また、施策のくりくりについても見直すべき。 <p>【提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業用地の確保は、目標達成に向け取組を加速されたい。 ・ 整備予定の産業用地については、対象となる産業分野の企業向け情報発信を早めに実施されたい。 ・ 林業政策は、団地化を推進し路網整備や架線整備を進められたい。また森林づくりに市民参加ができるよう、「緑の保全と創出」施策と連携を図り推進されたい。 ・ 観光政策は、既存事業者の観光消費額が減少傾向にあり、飯田市観光振興ビジョンの推進ロードマップを関連団体と共に早急に策定し、有効な手立てを打ち出されたい。 ・ 有害鳥獣による農林業への被害は年々顕著になっている。農林業振興のため、駆除等について知見も活用し有効な手立てを打ち出されたい。
2	27-15	森林鳥獣被害対策事業	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有害鳥獣による被害軽減のため、予算を拡大し駆除頭数を増やし対策されたい。 ・ 「みどりの景観整備事業」や農業課が担当する「農作物被害対策事業」との連携を密にし、また、市民の役割も位置づけ、知見を活用して切れ目のない総合的な対策を進められたい。
3	56-01	農地流動化促進事業	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定農業者の担い手の育成と、新規認定農業者を増やす取組を積極的に進めること。情報の提供、共有化を図り農地の集約化を推進されたい。 ・ 意欲ある販売農家、認定農家の意向をしっかりと聞き取り、課題解決のために一層努力し、中間管理機構をより有効に機能されたい。

平成27年度 決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【産業建設委員会】

No.	施策・事務事業の区分 施策名及び事務事業名	区分 No.	事務方向 事業性	施策及び事務事業に対する議会の提言
4	未来を見据えた地域産業の魅力、強み、人材の強化	12		<p>【目標の達成状況評価、課題認識】事務事業群のテーマごとに事務事業の内容を検証すると、もう少し厳しいのではないか。</p> <p>【事務事業の組み立ての方向性】「支え、育む産業基盤づくり」の該当箇所に記述した評価内容を前提としつつ概ね正しい。</p> <p>【提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政が進める人材育成は、企業が要求する人材を育成するとの観点も必要。また別事業として、企業が行う人材育成に対し支援金を支出するという補助事業を実施してはどうか。 ・当地域での大学院機能の維持は極めて重要。人材育成、人材確保のために産官学が連携し全力で取り組み信州大学の共同研究講座の恒久化を目指されたい。 ・地域農業の振興、遊休農地・耕作放棄地対策、担い手育成などに対する農業振興センターの果たす役割は大きいことから、抜本的見直し強化を検討されたい。併せて行政の役割の明確化を図られたい。 ・地球温暖化対策の視点から国の住宅政策が大きく変わってきている。飯伊地域の林業と地元の住宅産業の連携強化策を検討されたい。 ・若手の技術者や技能労働者の育成支援の方法を早急に検討されたい。
7	海外誘客促進事業	29-16	やり方改善	<ul style="list-style-type: none"> ・近年国が進めているインバウンド重視の方向やリニア中央新幹線・三遠南信自動車道の開通を見据えたと、今からの海外誘客促進の取り組みは重要だと認識する。しかし、現状としては市民の認識は低い。市民の理解を得ることに努力しながら、何を売ることの絞り込みから始めて、県だけに頼るのではなく飯田市独自の取組を行うこと。 ・海外からのサイクリングツアー、小・中学生の受入れ先の地区住民に対する理解を得る取組から始めて、受入れ体制の整備に取り組むこと。